

講演会

「鬼から人間へ」

かつて 中国侵略の中で鬼となった日本人戦犯は

いかに 人間に立ちかえったか

講演 絵鳩 毅 氏

歌曲発表 「ゆるしの花」

出演 かわせみ合唱団

とき 2006年9月10日(日)

午後2時開演

(午後1時半開場)

ところ 本立寺(小田原市千代)

主催 撫順の奇蹟を受け継ぐ会

神奈川支部 湘南グループ

参加費 300円

アクセス JR 御殿場線 国府津駅 (13:30 発) 松田駅 (13:11 発) いずれも下曾我駅下車
富士急湘南バス 小田原駅発下曾我駅經由新松田駅行き (13:20 発) 千代小学校前下車
※下曾我駅、鴨宮駅、富水駅にて送迎を予定していますので、ご希望の方はご連絡下さい。

ご案内 ○当日、託児を承ります。○駐車場あります。
○講演会終了後、中国からの留学生との交流会を計画しております。

問い合わせ 青 0465-37-1165 本立寺 0465-42-2671
金子 0465-47-8044 (鴨宮歯科) 根本 0465-38-3191



<絵鳩さんってこんな人>

藤沢市にお住まいの絵鳩 毅（えばと つよし）さんは、現在93歳。学生時代は尊敬する和辻哲郎教授の下でカント哲学を学び、東大卒業後は文部省のエリート官吏の道を歩み始めましたが、28歳で招集され中国山東省へ。

陸軍伍長として「三光作戦（殺し尽くし、奪い尽くし、焼き尽くす）」に参加します。

終戦後シベリアに連行され、過酷な強制労働や飢餓に苦しむ5年間の抑留生活を送ったのち、中国・撫順の戦犯管理所へと969名の仲間とともに移送されます。

ところがその管理所での待遇は思いもかけないあたたかいものでした。勤務する中国人にとっては肉親を殺された「敵」であるにもかかわらず、彼らは自分たちすら食べられない白米を供し、人道的な扱いを行ったのです。強制労働もなく、元日本兵たちは、安全、清潔な環境で6年間をすごします。元日本兵たちは、次第に自分の行ってきた罪を認め、戦争を反省し始めました。

絵鳩さんはどうだったでしょうか。

やがて絵鳩さんらは「起訴免除・即日釈放」の裁判の判決を受け、夢にまで見た懐かしい故国へ。43歳の年でした。そして彼は戦後の半世紀をどう生きたか。絵鳩さんの心の声を聞かせて頂くまたとない機会となるでしょう！

<撫順戦犯管理所とは？>

現在アメリカは石油ほしさにイラクを武力占領していますが、ちょうど75年前の1931年、日本は良質な石炭を奪うために中国東北地方にある撫順市を武力占領しました。

民衆の反感は高まり、32年に抗日ゲリラが撫順炭坑を襲撃します。その報復として日本軍は罪のない住民約3000人を虐殺するという蛮行（平頂山事件）を犯しました。

さらに36年、日本軍は撫順市に監獄をつくり、日本の占領支配に抵抗する人々を収容し拷問をくり返しておこないました。

撫順は中国民衆の日本に対する怨念の渦まきところであったのです。

その後歴史の因果か、撫順監獄は日本の敗戦・中国革命を経て1950年に日本人戦犯を収容・管理するための施設となります。

ふつうに考えれば、中国人が戦犯たちを苛酷に取り扱っても不思議ではなかったはずですが。

しかし、シベリア抑留から移管された969名の戦犯たちは、のちに「撫順の奇蹟」と呼ばれる人類史上まれにみる貴重な体験をする事になったのです……。

彼らは6年後「鬼から人間へ」と生まれかわり、愛する故郷や家族のもとに帰ることができました。

「撫順の奇蹟」とは何だったのか？ いかにも日本人戦犯は殺人鬼から人間へ生まれかわったか？

絵鳩さんはその自らの痛切な体験を語ってくれます……。

今というこの時にいったい心の底からの喜びや悲しみというものがあるのだろうか。

私たちのまわりをなにか目に見えない閉塞感のようなものがうっとうしい膜になって取り巻いている。

それがすっかり視野を閉ざしている。なにかが私たちの真実を見る目をくもらせているのだ。

雲か、霧か。それともだれかがガスを発生させてすべてを隠しているのか。

だれもなにも信じない。みんな自分のことばかり考えている。これで幸せになれるだろうか。子どもたちに幸せをおくってやることができるだろうか。

私たちの若ものや子どもたちに真実を見させなくてはならない。嘘やごまかしでその澄んだ瞳を覆ってはならない。ましてや戦争に狩り出してはならない。

丹沢と箱根と相模湾に囲まれた足柄、相模の地から新しい風を吹かせたい。

すっかり見通しをよくしてすべてを知らせなくてはならない。

私たちはどこからきたか。何をしてきたか。何を愛し、何と戦ってきたか。何を誤り、何を正してきたか。

すくなくとも私たちが守り通してきた人間としての愛と真実を子どもたちに伝えなければならない。

「撫順の奇蹟」は人間が真に人間として生きることができるとを示してくれる。それは私たちにとってかけがえのない光ではないだろうか。

撫順の奇蹟を受け継ぐ会 神奈川支部 湘南グループ

